

第5期横浜市子ども・子育て会議 第10回保育・教育部会
第33期横浜市児童福祉審議会 第11回保育部会 合同部会

日時：令和4年8月1日（月）18:30～

場所：市役所 18階 みなと6・7会議室

議事次第

1 開会

2 議事

報告＜公開案件＞

【子ども・子育て会議】

- (1) 令和4年度 幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業について

議事＜非公開案件＞

【子ども・子育て会議】

- (2) 私立幼稚園2歳児受入れ推進事業の事業者選定について

【児童福祉審議会】

- (3) 内装整備費補助に伴う保育所の認可及び補助金交付先法人の審査について

3 その他

4 閉会

〔配付資料〕

資料1 横浜市子ども・子育て会議保育・教育部会、横浜市児童福祉審議会保育部会 委員名簿

資料2 横浜市子ども・子育て会議保育・教育部会、横浜市児童福祉審議会保育部会 事務局名簿

資料3 「幼保小の架け橋プログラム」の実施に向けて

第 5 期横浜市子ども・子育て会議 保育・教育部会
第 33 期横浜市児童福祉審議会 保育部会
委員名簿

【敬称略 50 音順】

＜第 5 期横浜市子ども・子育て会議 保育・教育部会＞

	所 属 ・ 役 職 等	委 員	備考
1	大妻女子大学 家政学部児童学科 准教授	◎石井 章仁	
2	東京成徳短期大学 幼児教育科 教授	大澤 洋美	臨時委員
3	一般社団法人横浜市私立保育園こども園園長会 会長	大庭 良治	
4	子どもの領域研究所 所長	尾木 まり	臨時委員
5	公益社団法人横浜市幼稚園協会 会長	清水 純也	
6	一般社団法人ラシク 0 4 5	天明 美穂	臨時委員
7	横浜市 P T A 連絡協議会 副会長	倉根 美帆	臨時委員
8	公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会 男女共同参画センター横浜相談センター長	石山 亜紀子	臨時委員
9	横浜障害児を守る連絡協議会 会長	森 佳代子	臨時委員
10	國學院大學 人間開発学部 子ども支援学科 准教授	○山瀬 範子	臨時委員

＜第 33 期横浜市児童福祉審議会 保育部会＞

	所 属 ・ 役 職 等	委 員	備考
1	大妻女子大学 家政学部児童学科 准教授	◎石井 章仁	
2	東京成徳短期大学 幼児教育科 教授	大澤 洋美	臨時委員
3	一般社団法人横浜市私立保育園こども園園長会 会長	大庭 良治	
4	子どもの領域研究所 所長	尾木 まり	臨時委員
5	公益社団法人横浜市幼稚園協会 会長	清水 純也	臨時委員
6	一般社団法人ラシク 0 4 5	天明 美穂	
7	横浜市 P T A 連絡協議会 副会長	倉根 美帆	臨時委員
8	公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会 男女共同参画センター横浜相談センター長	石山 亜紀子	
9	横浜障害児を守る連絡協議会 会長	森 佳代子	
10	國學院大學 人間開発学部 子ども支援学科 准教授	○山瀬 範子	

◎：部会長 ○：職務代理者

横浜市子ども・子育て会議 保育・教育部会
 児童福祉審議会 保育部会事務局名簿

こども青少年局

区分	所 属	氏 名
部長	保育・教育部長	齋藤 真美奈
	保育対策等担当部長	本城 泰之
課長	保育・教育支援課長	小田 繁治
	保育・教育支援課人材育成・向上支援担当課長	野澤 裕美
	保育・教育支援課幼保小連携担当課長	田村 憲一
	保育・教育運営課長	古石 正史
	保育対策課長	渡辺 将
	保育対策課担当課長	大島 範子
	こども施設整備課長	安達 友彦
係長	保育・教育支援課 事業調整係長	佐藤 真知
	保育・教育運営課 幼児教育係長	杉浦 さおり
	保育対策課 担当係長	湯浅 真弥
	こども施設整備課 担当係長	佐藤 洋平
	こども施設整備課 整備等担当係長	濱島 亮平

「幼保小の架け橋プログラム」の実施に向けて

1 幼保小の架け橋プログラムとは

～幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)より～

- 中教審に「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」設置(R3～)
- 5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤を作るために重要な時期＝「架け橋期」(0～18歳の学びの連続性に配慮)
- 子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人ひとりの多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育めるようにすることを目指す。
- 架け橋期に求められる教育の内容等を改めて可視化したもの。各地域や施設の創意工夫を生かした取組の広がりに期待。
- 全国的な架け橋期の教育の充実とモデル地域における先進事例の実践を並行実施
- モデル地域として19の地域(横浜市も含む)が採択。

2 横浜市の取組

調査研究課題

大都市ならではの規模や多様性を踏まえた架け橋プログラムの創造
～「よこはま☆保育教育宣言」を架け橋期で具現化する試み～

横浜市の強み

- ✓ 幼保小連携を大切にしてきた歴史と事業
- ✓ 大都市ならではの多様な取組
- ✓ 「よこはま☆保育・教育宣言」
大切にしたい子どもの育ちの方向性明示

横浜市の課題

- ✓ 多様性
保育・教育内容、中心課題、環境
- ✓ 取組や意識の地域差

1～2年目に充実させる取組

- ✓ 「10の姿」を手掛かりに教職員どうしが子どもの姿を共有する機会
- ✓ 園と学校の子どものどうしが交流する機会
- ✓ 幼保小教育交流事業(S60～1400以上の園校が参加)
- ✓ 子ども(特に5歳児)の遊び・学び ⇒ 好事例の発信(園・学校へ)
※探求心を育む「遊び」研修会(新規事業)
- ★幼児期の遊びの重要性を市民へ発信
ターゲットは保護者を中心とした若い世代
- ★園訪問を通じた、好事例の収集と発信

3年目の取組

- ✓ 横浜版接続期カリキュラムの改訂
- ✓ 持続可能な取組への移行
- ✓ 市民への周知

こども青少年局保育・教育支援課 幼保小連携担当

TEL:671-3731

E-mail: kd-youhosyo@city.yokohama.jp